

3

施設・設備の清掃と効果

P O I N T

- ①施設・設備の清掃の効果を認識する。
- ②メンテナンスの意義を理解する。
- ③清掃の継続的重要性と管理を学習する。

■清掃は点検なり

施設・設備および機械類の清掃の充実は、ただきれいに清潔にするだけでなく、普段気がつかない、その設備や機械の老朽化や消耗度を確認することになります。

例えば、日常の清掃作業が充実していると、清掃作業時にボルト・ナットのゆるみに気づいたり、塗装のひび割れに気づいたりします。その場で修理や補修ができるものは修理したり、部品交換しますが、修理・補修のできないものは記録しておいて、なるべく早く整備することが可能です。

こういった、設備や機械の消耗（疲労）や老朽化に起因する異物混入事故が多いことも事実です。

「清掃は点検なり」。早い段階で消耗度や老朽化をチェックすることは、異物混入を未然に防ぐことにつながります。

■施設・設備のメンテナンス

施設・設備は、時間の経過とともに老朽化が進み、それにともなって異物混入の危険性が増大します。上記にあるように施設・設備は日々の清掃・洗浄と同時にメンテナンスも行なうようにして、常に老朽化対策を講じていなければなりません。一般的には、こうした内容は5Sには含まれないと考えられますが、食品事故防止のための5Sにおいては、施設・設備のメンテナンスも、5Sの一環としてとらえ、取り組んでいく

こと効果的でしょう。

異物混入対策から見た施設・設備のメンテナンスには、次の2つの面から考える必要があります。

①異物の防除を目的とした施設・設備が老朽化し、本来の目的が果たせなくなっている

例えばシャッターが古くなり、どうしても隙間ができてしまうような場合がそうです。これは当然、すぐに修理しなければならないのですが、往々にして見逃しがちです。

②施設・設備が老朽化し、それ自体が異物、あるいは異物の発生源となっている

例えば工場の天井の塗装がはがれかけているような場合、放っておくと製品の上に落下して、異物混入の原因となってしまいます。あるいは配管が古くなっている場合も同様です。製造機械に付帯している配管などはよくチェックしていますが、施設の配管となるとなかなかチェックが行き届かないものです。

こうした施設・設備のメンテナンスは、専門の部署に任せつ放しにするのではなく、日々この施設・設備を使う人も関心をもって留意しなければいけません。

■施設・設備の老朽化対策

次に、施設・設備の老朽化に対する対処方法を述べます。

①異物の防除を目的とした施設・設備のメンテナンス

施設・設備の本来の異物防除機能が常に適正に働くためには、定期点検で、その機能の有効性をチェックしておく必要があります。

3 施設・設備の清掃と効果

②施設・設備のメンテナンス

これも定期点検でチェックします。施設・設備の老朽化を原因とする異物は、木片、サビ、金属片（ゆるくなつて外れたボルト・ナットなど）があります。

具体的には、図表3-2に挙げるような個々の事象に対して、対策をとっていくことが重要です。

図表3-2 施設・設備の老朽化による異物混入事例

混入異物	原因(施設・設備)
ガラス片	機械の破損部品 破損した窓ガラスの残滓
針金	仮止めした針金の放置
ビニール片	はがれかけたテープの放置
塗料片	機械、施設の塗料のはがれ
プラスチック	毀損した機械の一部
紙類	古いポスターの一部
ハケ類	古い清掃用具の使用
木片	老朽化した整理棚の破損部
ゴム	老朽化したホースの破損部

■実施後の確認と継続の重要性

物体は上から下に落ちます。清掃においても、このことが基本になります。つまりゴミやホコリは上から下に落ちますから、清掃もその順序で行ないます。天井の清掃から壁、床…ということです。

天井からの落下物は異物混入の原因です。また、壁や床に隙間があるとネズミや昆虫類の侵入口となります。

定期清掃ではこういった点も見逃さず、修理・補修を同時に実行し、

異物混入・微生物発生要因を完全に断つことを目標にして実施します。

実施後は、定期点検で修理・補修箇所を保全し、また新たに老朽化や消耗した箇所がないかをチェックします。しかし老朽化や消耗は、定期点検のタイミングとは関係なく進行します。外観的にはそれほど老朽化しているように見えない場合でも、内部はかなり進行しており、突然壁がはがれる、急に水漏れがひどくなるなどのケースもあります。

清掃は継続です。そして、清掃は点検作業でもあります。

施設や設備、機械は定期点検があるからと気を抜かないで、日々の清掃時でも、チェックポイントを明記しておき、こまめにチェックするようしましょう。